

研究員 の眼

日本は豊かなのか？ 「一人当たりGDP」で見る日本の未来－「中期経済見通し」から見えるもの(その1)

経済研究部 経済調査室長 齋藤 太郎
(03)3512-1836 tsaito@nli-research.co.jp

日本のGDPは米国に次ぐ世界第2位の規模を誇っていたが、2009年に中国に抜かれて第3位に転落した。当研究所が2016年10月に発表した「中期経済見通し」では、日本のGDPは10年後には現時点で日本の半分程度にすぎないインドにも抜かれると予想した。これは人口が日本の約10倍となっていることに加え、先行きの人口増加率も日本を大きく上回ることが大きい。

ただ、国全体の経済規模は必ずしも一人ひとりの経済的な豊かさを表すわけではない。一人当たりGDPを用いて国際比較をしてみると、日本は394万円。米国の678万円には劣るが、中国(98万円)の約4倍、インド(19万円)の約20倍となっている(いずれも2015年時点)。

日本の経済成長率は今後も中国、インドを下回る可能性が高いが、一人当たりGDPで見れば10年後でも中国の2倍以上、インドの10倍以上の水準を保てる見込みだ。

人口減少下で国全体のGDPを大きく拡大させることは難しいが、一人当たりGDPを伸ばすことは可能だ。国全体のGDPが他国に抜かれたからといって過度に悲観する必要はないだろう。

GDPの国際比較

